

# 今月の視点

## 医師会について

理事 藤原 崇

### はじめに

2024年、現在使われている紙幣のデザインが一新される。

千円札が北里柴三郎、五千円札が津田梅子、一万円札が渋沢栄一に変わる。日本で、はじめて肖像入り紙幣が発行されたのは1881年（明治14年）だが、今回入れ替わる令和の新札3人を含めても、日本で紙幣に描かれた人数はわずか21人に過ぎない。この度、野口英世に代わって新千円札の顔になるのは、北里柴三郎である。北里柴三郎は数多くの画期的な業績を残した、いわば「近代日本医学の父」であり、1901年（明治34年）第一回のノーベル生理学・医学賞候補でもあった（最終的に受賞したのは、エミール・ベーリングの「ジフテリアに対する血清療法の研究」に対してであったが、これはもともと北里柴三郎との共同研究であった。北里もノーベル賞にノミネートされたが、惜しくも受賞を逃している）。

しかしながら、北里柴三郎といえば、われわれと最も関連深いのは日本医師会である。日本医師会の沿革は、実際はやや複雑であるが、ざっくり言うと、北里柴三郎らによって1916年（大正5年）に大日本医師会が設立された（1916年（大正5年）～1931年（昭和6年）まで初代会長に就任）。日本医師会館は東京都文京区の不忍通り沿いに建っているが、その1階ロビーに北里柴三郎のブロンズ像が鎮座している。

日本医師会会員数は、以下に示す通り、開業医より勤務医の方が多い。開業医にとっては、医師

会は比較的身近な存在である場合が多いが、勤務医は医師会と全く接点がない場合も多い。そのため、医師会の活動内容がわからず、医師会は開業医の利益団体のようなものだろうと思われる方がいる。また、医師会員でない方にとっては、医師会の活動内容が全くわからないことはある意味当然であるため、私見を述べてみたい。

### 医師会とは

医師会とは、日本で唯一の医師を代表する職能団体である。

医師会は「日本医師会」「都道府県医師会」「郡市区等医師会」の3層構造となっており、会員数の内訳は、郡市区等医師会（20万6,213人：令和4年11月1日現在）、都道府県医師会（19万1,146人：令和4年11月1日現在）、日本医師会（17万3,761人：令和4年12月1日現在、うち開業医82,726人、勤務医他91,035人）となっている。日本の医師総数が33万9,623人なので、現在の日本医師会の組織率は51.2%となる。

それぞれ独立した団体であるが、緊密な連携・協力体制のもと、国の医療制度の根幹から地域での医療提供体制の整備に至るまで、各団体がカバーし合って幅広く、より良い医療体制を整えている。

3層構造について簡単に説明すると、郡市区等医師会は890（うち大学医師会65、その他12を含む）に分かれ、予防医学、休日・夜間診療な

どの初期救急の運営など、地域で必要とされる医療サービスの提供を行っている。令和4年は山口県内医師総数3,682人のうち、郡市区等医師会入会者は2,647人で、入会率は71.8%であった。全国平均の郡市区等医師会入会率は60.7%なので、山口県は高い部類に入る。

都道府県医師会は47に分かれ、各都道府県の医療政策に基づき活動をしている。

山口県医師会では、医師の自己研鑽が幅広く効果的に行われるように、研修会等を数多く開催し、会員の質の向上や新しい知見の習得・専門医取得に必要な講習などの生涯教育、医療保険や地域包括ケアへの対応、地域医療・救急災害医療への対応、妊産婦・乳幼児保健・ワクチン接種への対応、医事案件に対応する医事法制、医療機関経営・看護学校の支援、勤務医・女性医師対策、学校医・産業医の育成、広報・情報活動などを行っている。

また、山口県は医師の高齢化が全国1位（平均年齢53.3歳：令和2年）となり、将来の救急医療などを含めた医師確保対策が、重大な課題となっている。

原因は、若手医師の不足によるもので、若手医師が県内で働きやすくなる環境整備を行い、専攻医・臨床研修医の県内定着を引き続き進めていく必要がある。日本医師会が組織強化目的で卒後5年までの医師会費免除の方針としたことを受け、県医師会・郡市区医師会も同様の方針をとり、専攻医・研修医に医師会に入るメリットを訴え、医師会組織の強化を図っていかねばならない。

日本医師会は、医師を代表する唯一の職能集団として、国や政府に対して医療政策に関するさまざまな提言を行っている。また、行う事業としては、医師の生涯研修に関する事項、地域医療の推進発展に関する事項、保健医療の充実に関する事項など15にわたる事業を定款に定めている。日本医師会の最高意思決定は代議員会で行われる。代議員は各都道府県より、その会員数500人ごとに1人、及び端数を増すごとに1人の割合で選出される。代議員会は毎年1回の定例代議員会、及び必要に応じて臨時代議員会を開催し、重要事

項について決議を得る。

### 医師会組織力強化について

医療は公定料金であり、他の業種と異なり、価格転嫁が容易ではないうえに、近年は診療報酬への対応といった、運営のみに注力するだけで黒字になるわけではない。

医療界でも今後の急速な進展を遂げるであろうAI化や、サイバーセキュリティ対策の費用などにも少なからず経費がかかるようになるであろう。経営面にも相当の注力が必要である。そのため、個人の力で現場の声を踏まえた医療政策の実現に向けて、物事を動かそうとしても、どうかなる問題はほとんどないことは目に見えている。しかも、医療政策を検討する場には、さまざまなステークホルダー（利害関係者）が参画しており、医療界がいくら正しいことを発言しても、それが実現するとは限らない。

よって、より多くの医師が医師会活動に参画することが、医師会の組織強化と発言力の強化につながる、まず第一歩となる。が、参画するだけではなく、医師会を通じて医療界が求める制度・政策等の決定プロセスに深く関与し、医療界の意見を反映させていくことがより重要であると考えらる。

### 参考図書

1. 河合敦. お札に登場した偉人たち21人
2. 茨木保. 北里柴三郎 日本近代医学を築いた肥後もっこす
3. ドクターラーゼ 別冊 2023年2月